



かどや通信

第15号

発行日：平成28年8月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

感嘆の声やまず！ アイデア光るドールハウス展

「除村(いづみむら)恵子ドールハウス作品展」が七月一日から三十一日まで開催され、繊細でウィットに富んだ作品三十三点が見学者の心を惹き付けた。

鈴鹿市在住の除村さんは、若い頃から物作りが大好きで、様々な小物を作って楽しんでいて、十年前にテレビで紹介されたドールハウスに強く惹きつけられ、独学でドールハウス作りを始めたそうです。

ドールハウスとは、一定の縮尺で作られた模型の家のことで、建物の外観だけでなく、部屋の内装や家具、調度品等を含めて生活空間を表現するものである。家の設計に始まり、

家具の選択や配置から、小物作りにもいたる総合的な知識と発想力、緻密な技術が必要とされ



る。

古民家が大好きという除村さんのドールハウスは、洋風のものだけでなく、古民家や蔵、和菓子屋、反物屋など古き良き時代の日本を思い起こさせてくれる作品が多く、見ているだけでなんとなく心がほっこりする魅力がある。また、今回はミニ着物や仮面舞踏会用の仮面等の作品も展示されている。

除村さんの作品には隔々に至るまで様々な工夫やアイデアが生かされている。豊かな発想力と緻密な手作業が光り、思わず見入ってしまうものばかり。見学者は「すごいなあ！」「この発想はどこからくるんやろ」「見とるだけで、楽しくなってくるわ」等々、展示会場には賛辞の言葉が飛び交っていた。

昨年十二月、かどやでは「南部美智代 古布人形展」を開催していた。見学者の一人から帰り際に「ドールハウスを作っているんですが、こちらで展示させていただきませんか」との申し出をいただいた。その人こそ、今回の展示の制作者の除村さんだった。



実は、ドールハウスの詳細は知らなかったのだが、その響きの良さもあり、二つ返事で「是非！是非！」ということになった。イベント情報作成前にインターネットで調べてイメージは掴んだのだが、作品が搬入されて、びっくり仰天。その素晴らしさに腰を抜かす程驚いた。来館者の方々もその感動は同じだったようで、感嘆の声と賛辞を惜しむ人はいなかった。

そのことを除村さんに伝えると「私こそ、こんなに広い場所で大勢の方に見ていただけ、ありがたかったです」とのこと。作るだけで展示する機会はほとんどなかったのだそう。「もう作りたいものは作り尽した感があり、最近では作ってなかったのですが、新作に挑戦したいという意欲が湧いてきました」。新作が完成したら、また展示させていただきます。今回見逃した方も、次回はお見逃しなく！

夏休みス・ペシヤル

子供たちがやって来た!

かどやでは、一般公開が始まった四年前から、夏休みには寺子屋と称して「クーラーのきいた涼しいかどやで宿題を」と、平日の午前中をこども達に解放している。

《今年も寺子屋大繁盛!》

今年も寺子屋を開校したところ、七月二十一日から八月十日までの平日十二日間で延べ百六十名が参加した。

寺子屋開校の情報は、会員向けに毎月発行しているイベント情報と『広報とば』に掲載しているのだが、今年の七月分に掲載を忘れてしまった。今年七月分に掲載を忘れたという失態を犯してしまった。そこで清水会長の発案で、急きょ大胆にも鳥羽と安楽島、加茂の小学校宛に



「かどやで寺子屋」情報の配布を依頼したところ、なんと初日には三校から二十名を超える子供たちが宿題をかかえてやって

来た。ちなみに、去年は初日に十三名、延べ七十九名が参加した。

ふたを開けるまでは、今年はゼロでも致し方なしとしていただけに、うれしい悲鳴ではあったが、元気がありあまる小学生が二十名も集まれば、家中走りまわる子もいれば、けんかまがいの大暴れをする子もいて、しばしば大混乱に陥ることも。

しかし、子供たちは毎日、嬉しそうにせせとやって来た。そんな中、周りの喧騒をもとせせず、冷静に着々と宿題をこなし、さわやかに帰っていく子もいた。また、友達と教え合ったり、下級生の宿題を見てあげたりと、大騒ぎしながらも仲間との絆も深めていたようだ。

また、今回は清水館長がお孫さんに買いつけた絵本等百冊あまりを「欲しい本があったら、持ってきた」と提供してくれた。子供達は喜びせぬプレゼントに大喜びで、好みの本を熱心にさがす一幕もあった。

《風鈴と白玉作りにワクワク!》

寺子屋だけでなく、夏休みの子供向けプログラムも企画した。二年前から始めた「かどやワクワク

ク子供塾」の今年の第一弾が八月三日に開催された。今回は、二十二名の子供たちが参加し、風鈴作りと毎回大人気の白玉入りフルーツポンチを作りに挑戦した。

まず最初に白玉入りフルーツポンチを作り、白玉や果物を冷やしている間に風鈴作りにも挑戦、完成したら、白玉入りフルーツポンチの試食という順序だ。

フルーツポンチは、かどやサポーターのカヨさんとサカエちゃんが担当し、スイカを割るところから始まった。続いて、全員がスプーンをもち、スイカを丸くくり抜いた。次は一番人気の白玉作りで、全員がボウルに手をつ込み、粘土遊び感覚で、それはそれは嬉しそうに白玉粉をこねていた。



風鈴作りは、鳥羽まちなみ水族館(代表:水谷伸子さん)のメンバー五人が昨年の箱海作りに引き続き指導にあたってくれた。この作業は庭

で行ったが、まちなみ水族館の皆さんが暑さをものともせず、優しく子供達を導いてくれたおかげで個性溢れる風鈴が完成した。

その後、台所に戻り、冷たいフルーツポンチに舌鼓を打って、お開きとなったが、この体験を絵日記に書いた子もいたようで、夏休みの楽しい一ページになったようだ。

《竹トンボにハラハラ

館長カリーにドキドキ》

「かどやワクワクことも塾」第二弾は「竹トンボ作ろう」館長カリー付」と題して八月一九日に行われ、十八名の子供達が参加した。

竹トンボ作りは小型ナイフを使うが、最近ではナイフの使い方知らない子が多いため、子供の頃からナイフを使いなれてきた近所の方々八名に協力いただき、ナイフで竹を削る体験に挑戦した。初めは子供達の危なっかしいナイフの使い方を使う方も見守る方もハラハラしていたが、「こういうふうに使おう」とマンツーマンで大人達が丁寧に指導し、マイ竹トンボが完成した。竹の水鉄砲や一輪差しの下準備

今こそ飛躍のチャンス！ 〜伊勢志摩サミット考

第三十三回かどや塾は、「記者がみた伊勢志摩サミット」と題して毎日新聞社・伊勢支局の林一茂さんをお迎えし、七月二十四日に開催された。

サミットの経済効果について、三重県は今年三月に、全国で一〇七億円（内三重県は四八九億円）との試算を発表。当地でもその経済効果に大きな期待がよせられていた。

しかし、林さんは効果が出ているのは限られた場所だと現状を紹介したうえで、「成果を生み出せるかどうかは、今後の地元にかかっており、国内外の注目を集めた今こそ頑張り時だ。ところが、開催することに精力を使い果たしたかのよう

ような迫力が感じられず、残念だ」と述べた。

また、テロの懸念が大きく、随行してきた各国記者達の行動も制限されていたため、当地の魅力を感じてもらおう機会は多くはなかったようだとも加えた。

しかし、伊勢神宮にリアス式海岸真珠や豊富な食材、海女文化等、他にはないこの地の魅力は、サミットのニュースを通して国内外に紹介できた。「サミットの印象が残る今こそ伊勢志摩鳥羽が飛躍できる絶好のチャンスだ」とサミット後の努力の必要性を強調した。さらに、過去の地方開催地である沖縄や洞爺湖を例に挙げ、開催後の観光客の推移等について「サミット効果は確実にあったし、外国人客も増えた。ただ、それを活かせるかは地元次第」という両地元の担当者の発言も紹介した。

最後に「サミットを期に、伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町の首長も会合を重ね、伊勢志摩の魅力を世界に発信するため、一体となって協議しあえる仕組みを作れば、大きな力になるのでは」と提案し、今後の活動にエールを送って、締めくくった。

ランニング・ポリス(走る警察官)

経済効果とは直結しないだろうが、サミットといえば、四月下旬から出現した屈強な若者たちが、特に夕暮れ時に町のそこそこで黙々とランニングしていた姿が印象深い。彼らは、仕事が終わっても自宅に帰ることもできず、娯楽施設も少ない当地で外部での飲酒も制限があっただろう。となれば、走って身体を鍛えるしかなかったのかもしれない。そんな彼らの走る姿を見るたびに、任務の重さに頭が下がった。

かどやにも、三十名近い警察官が来館されたが、三重県に鳥羽市があることを知らない人が多いのはガックリ。しかし、サミットのお陰で鳥羽市やかどやを知ってもらえたのはありがたい。歴史や古いものが好きと言う方はじっくりと説明に耳を傾けてくれて感激した。また、いただきもののお菓子を食べながらいろいろな話をした人もおり、かどやでは警察官への好感度がグンとアップした。こういふ民間交流もサミットの効果なのでは。サミット終了後、ランニングポリスの姿が町から消えて「なんかさびしいなあ」と思った人も多かったはず。

伊勢志摩サミットといえば、各国の首長以上に、ランニング・ポリスの雄姿が今も思い出される。

備されており、子供達は昭和を感じさせる竹細工作りに大人と共に汗を流した。さらには竹を使った厄除けの縁起物である猿はじきも作った。

早目に竹細工が完成した子供達は、かどやの庭を駆け巡り、自作の水鉄砲で大はしゃぎした。

館長肝いりの館長カレーは、当日の朝八時半から準備を始め、しっかりと煮込んで十二時に完成。大汗をかきながら、カレーに舌鼓を打った。

今回のプログラムは、普段は接することの少ない近所の大人との触れ合いも生まれ、子供達のすてきな夏休みの思い出になったにちがいない。

なお、館長カレーは、お米が参加者のお祖父様から、じゃがいも、人参、たまねぎ、なす、おくら、ミニトマトは、保存会の浜田さんからの寄付によるもの。多くの方々の協力が子供達の

思い出作りのエッセンスになっている。



サミット後は開催の前の



今年も新宿

ジャズがやって来た

今や初夏の鳥羽の風物詩となったジャズの祭典「新宿トラッドジャズフェスティバル イン鳥羽」が、七月三日の十八時から鳥羽市民文化会館大ホールで開催された。

昨年は本番を控えた十二時過ぎに出演者十八名中八名がかどやを訪れ、演奏を披露してくれたが、今年はお出演者二十四名中昨年を上回るなんと十九名が参加。本番を盛り上げるように、素晴らしい演奏を披露し、観客から大喝采を浴びた。

この日も昨年同様、藤之郷町内会が防災訓練の一環として炊き出し



を行って、演奏前にまたジャズメロン達を招いておにぎり汁を

るまってくれた。メンバーの多さに町内会の皆さんを慌てさせる一幕もあったが、町内会の方々とのも楽しんでいた。交流

新宿トラッドジャズフェスティバルは、東京・新宿三丁目界隈の居酒屋のオーナー達が「山下洋介や坂田明など多くの名プレイヤーを輩出した新宿でイベントを」と始めたのだそう。今年で十六回目を数えるが、毎年十一月には二日間をわたり、ライブハウスやバー、居酒屋、路上等でプロやセミプロ等百組を超えるミュージシャン達がニューオリンズやデキシラード・ジャズ、ボーカル、ゴスペル等を披露する大イベントだ。鳥羽で演奏してくれる方々は、同イベントの常連の一流プレイヤー揃いなのだ。

そんな名プレイヤー達の演奏が、かどやでは目の前で聴けるのだから、盛り上がりがないわけがない。今回も短い時間だったが、迫力ある素晴らしい演奏で観客を魅了した。

もちろん、夜の本番も心に響く素晴らしい演奏の連続。ジャズの魅力が会場を満ち、終了後も「よかったですなあ！」と興奮冷めやらぬ様子の観客が印象的だった。

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設 備利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

◆◆◆貸部屋の案内◆◆◆
かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

かどや保存会 平成28年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで27年度には、301名の方々に会員登録いただきましたが、今年度はさらにこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年度(H28/4/1～H29/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713